

修習事業実施報告書

2004年9月5日
修習技術者支援実行委員会
報告書作成 青木ゆかり

- 1 修習事業名称
平成16年度 第5回修習技術者研究発表大会 (先端複合技術研究発表年次大会)
基本テーマ 「各学会のIPDと修習プログラムとの連携」
- 2 実施日/会場
平成16年8月28日(土) 9:30～17:00 / 於: 日本技術士会荻手第2ビル5階会議室
- 3 プログラム
第1部 先端複合技術研究発表会
第2部 社団法人日本技術士会支部の修習技術者研修について
第3部 討論会 学会と日本技術士会の初期技術者教育
- 4 参加者
59名

【実施内容および成果報告】

第1部 先端複合技術研究発表大会

司会 高島昭三

- 1.1 都市ごみ処理システムの設計および評価に関する研究
化学・環境部門 修習技術者 鎌田 憲司 氏
可燃ごみ, 不燃ごみを対象として, 4つの処理方法を評価し, 望ましいごみ処理システムの設計方法を考察
- 1.2 情報セキュリティーに関する研究とwebサービス技術の最新技術動向
情報部門 技術士補 小瀬木 浩昭 氏
複数のサーバで1つのサービスを構成することで, インターネットにおけるプライバシー保護を実現するモデルを紹介
- 1.3 窒化膜エッチングにおけるチャンバー壁状態の影響について
応用理学部門 修習技術者 山本 康隆 氏
多層膜の連続加工という観点から, 窒化膜エッチングにおける壁状態の変化による影響について考察
- 1.4 固体酸化燃料電池(SOFC)の開発動向
機械部門 技術士補 古賀 重徳 氏
固体酸化燃料電池(SOFC)の原理, 特徴をはじめ, 各社での開発状況, 活用事例等を紹介
- 1.5 オゾンを用いた余剰活性汚泥の削減
上下水道部門 技術士 西村 総介 氏
オゾンを利用することで, 余剰汚泥を排出しない下水処理の原理説明と, 活用事例を紹介

第2部 社団法人日本技術士会支部の修習技術者研修について

司会 岡野庄太郎

- 2.1 北陸支部における活動報告
北陸支部 建設部門 技術士 佐藤 直衛 氏
北陸支部における活動基本方針, 活動内容, 課題等の紹介
- 2.2 修習技術者の研修について - 近畿支部の対処 -
近畿支部 化学部門 技術士 稲本 渡 氏
修習技術者への指導に関する近畿支部での考え方, 当面する問題, 現実の対応策等の紹介

第3部 討論会 学会と日本技術士会の初期技術者教育

司会 岡野庄太郎, 坂本恵一

3.1 パネリスト等

基調講演 日本技術士会会長 清野 茂次 氏

パネリスト

- 社団法人 日本機械学会 継続教育事業部会部会長 東京理科大学工学部長 本阿弥 眞治 氏
- 社団法人 土木学会 上級技術者資格委員会委員長 建設系CPD協議会会長
東京工業大学 大学院理工学研究科 教授 池田 駿介 氏
- 社団法人 化学工学会 化学工学会人材育成センター 橋谷 元由 氏
- 社団法人 日本技術士会修習技術者支援実行委員会委員長 岩熊 まき 氏

3.2 パネリスト講演

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| (1) 日本機会学会における継続教育支援システムについて | 東京理科大学工学部長 本阿弥真治氏 |
| (2) 土木学会の技術者資格、CPDおよびIPD | 東京工業大学大学院理工学研究科教授 池田駿介氏 |
| (3) (社)化学工学会人材育成センターにおける継続教育 | 化学工学会人材育成センター 橋谷元由氏 |
| (4) 日本技術士会におけるIPD | 日本技術士会修習技術者支援実行委員会委員長 岩熊まき氏 |

3.3 討論

- (1) IPDの「時間」はどのように決めたか
 - 4年間で200時間を想定。APECエンジニアのIPDである年間50～60時間を目安とした。
 - 技術士会との整合性をとることは大切だと考え、調整した。50単位くらいが妥当だと判断した。機械学会とほぼ同様。
 - ポイント制はこれから検討する段階。先行している学会と足並みを揃えることになると思う。
- (2) 学会外での活動によるIPDは受け入れない形となっている主旨はなにか
 - 事務処理上の制約から、現状は学会内の活動のみカウントできるようになっている。事務処理上の問題が解決されれば、いろいろな学会のIPDを認める形になっていくと思う。
- (3) JABEE修了者と、他の大学の卒業生へのサービスは同じでいいと考えるか。
 - 現段階では、JABEE修了者とそれ以外とで差をつけるつもりはない。必ずしもレベルに差があるとは言えないと認識している。
 - JABEEは教育プログラムの認定であり、個人の能力を認定しているわけではない。土木学会では、2級の試験で個人の能力をはかっている。
 - 学会内ではまだ議論していないため、個人の意見だが、JABEEは修了者個人の能力は保証していないと考えている。JABEE修了者もそれ以外の大学の卒業生も同じように扱うべきだと思う。
 - JABEE修了者は「技術士第二次試験受験資格の保持者」と認識している。技術士会にも入会してほしい。
- (4) 首都圏以外の地域でのIPD活動について
 - 地域によってはハンディがある場合もあるが、近畿支部には1400人の会員がいるし、交通の便もいい。集団教育の機会も多く、地理的な面で不便を感じることはない。
 - WEBラーニングプラザのプログラムは役に立つと思っている。ただし、WEB教材だけでは効果がでない面があるため、このコンテンツをベースに講習会をする等の機会を持ちたい。
 - 30余の専門委員会に講習を依頼している。毎年支部の持ち回りで講習を実施中。本部と支部との共催で講習を開いたりもしており、地元で参加できる機会は多く設けている。
来年4月に建設系CPD協議会のサイトを立ち上げる予定。11学協会の情報が、このサイトでわかるようになるので、活用してほしい。
 - 講演会は各支部で年に1回は実施している。学会誌への投稿等の活動は、地域にかかわらず可能。講習は、現在は大都市中心であり開催地まで出向いてもらう必要があるが、多くの場所で開催できるように、汎用的なテキストを作って講師ができる人を増やす工夫をしている。
 - 技術士会には全国で7つの支部があり、修習技術者に関する活動は、基本的には支部が中心。昨年度の合格者歓迎会は、全支部で実施した。本部からは、ガイドブックの作成等で支部を支援している。支部連絡会での連携をより深めたいと考えている。
- (5) 最後に
 - IPDもCPDも「教育」ではなく、「研鑽」である。自己の責任において自己を高めていく活動であり、結果はマーケットが評価することになる。自己の能力を高めるための方法を探している人たちをサポートすることが、我々の責任だと考えている。

以上